

情報メディア学科

履修・成績に関する説明

【1年生】

情報メディア学科 教務委員

保証人の皆様

ここでは、情報メディア学科の学生として充実した学修ができるよう、学科のカリキュラム編成の特徴や、それらに向けた必要事項・注意点・その他の留意事項を含めて解説いたします。

情報メディア学科の特色（特色を活かすためのカリキュラム）

情報メディア学科には、情報メディアに関する様々な分野の教員が集まっています。また、それぞれの分野においても、情報技術・制作技術など、方向性や特色など様々な研究室があります。

2026年度現在では、16の研究室で教育・研究をしつつ、相互に協力し合い分野の枠を超えた発展を目指し、様々なスペシャリストとなる人材育成を行っています。

このような学科の特色を活かすために、情報メディア学科では、それら研究室への配属に関連の深いカリキュラムとなっています。また、個々の学生が志望する専門分野の科目だけでなく、関連する幅広い学修ができるようにするため、1本筋ではないカリキュラム構成となっています。単位修得だけを目標としてしまうと、学科の特色を活かすことはできません。その点を踏まえて解説する内容をご理解下さい。

卒業研究と研究室

4年次には卒業研究を履修します。卒業研究は、基本的に学科教員のいずれかの研究室に所属し、研究室の指導教員のもとで研究を進めて行きます。そのため卒業研究において、所属する研究室が目指す分野の研究室であることはとても重要です。

卒業研究で所属する研究室

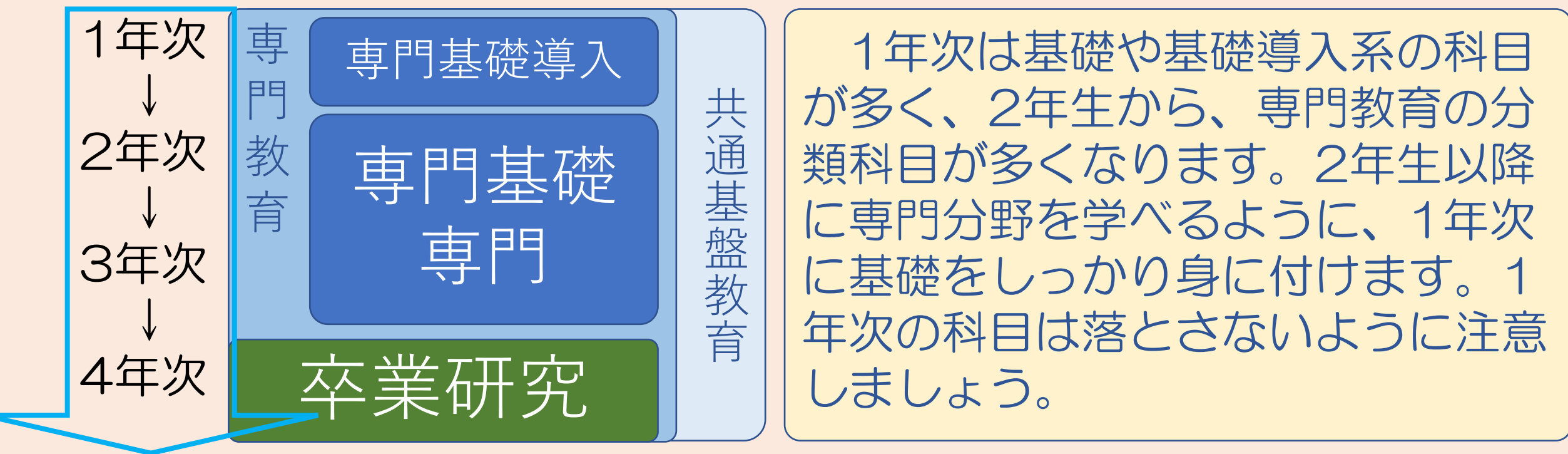
卒業研究において所属する研究室は、実質的に3年後期の情報メディア専門ユニットで配属されることとなります。よって、3年生後期開始までには、志望する専門分野の、どの研究室に所属したいかを明確にしておく必要があります。

希望する研究室を目指すために

卒業研究において、必要とされる専門の知識や技術は、研究室によって様々です。そのため、配属されるまでに、志望する専門分野に見合った科目を修得しておくことが重要です。

カリキュラムの基本

カリキュラムの基本として、学部や大学全体のカリキュラムが存在しています。1年次は基礎や基礎導入系の必修科目が多く、不合格にならないように気を付ける必要があります。



1年次は基礎や基礎導入系の科目が多く、2年生から、専門教育の分類科目が多くなります。2年生以降に専門分野を学べるように、1年次に基礎をしっかり身に付けます。1年次の科目は落とさないように注意しましょう。

学年進行に合わせて専門性が高まっていますが、並行して、1年後期以降各学期に、演習系必修科目が配置されています。

専門科目の必修科目（演習系の必修科目）

ユニットプログラムなど、1～3年次の各学年に配当されている演習系の科目は、各自の能力を高め、**知識・技術、応用力を身につけるための必修科目**です。これらは、**負荷も大きく、卒業研究の研究室配属にも繋がる重要な科目**です。

週2コマ

1年次後期：情報メディアワーク基礎（情報分野の基礎）

2年次前期：情報メディア基礎ユニットⅠ（専門の概観の演習）

週2コマ

2年次後期：情報メディア基礎ユニットⅡ（専門項目を選択）

週3コマ

3年次前期：情報メディア応用ユニット（専門項目を選択）

3年次後期：情報メディア専門ユニット（研究室へ配属）

全ての学年および学期に設置されているため、もし不合格になり再履修することになると、同期に2つ以上の受講が必要となり、その後のカリキュラム進行にも大きな影響がでてまいります。**必ず配当期に修得して下さい。**

卒業研究履修の資格（履修要綱参照）

4年次に卒業研究を履修するには、3年終了時に卒業研究履修の資格をクリアする必要があります。

- ・ 総修得単位が104単位以上修得
- ・ 共通基盤教育26単位以上修得
専門教育50単位以上修得
- ・ 修得していなければならない科目、23科目を全て修得

順当に必要な単位を修得していれば、困難な資格ではありません。

これ以外に、3年前期終了時まででも、前期必修科目の不合格や、単位数が大きく足りない場合、次年度の卒業研究の研究室配属対象とならないため注意が必要です。

4年次において卒業研究を履修するためには、3年次終了時に次表に示す条件1～3をすべて満たしていなければならない。

条件1 総修得単位が104単位以上であること 条件2 共通基盤教育で26単位以上、専門教育で50単位以上修得していること 条件3 修得していなければならない科目を修得していること		
修得していなければならない科目		
科目名称	配当期	条件
アカデミックITスキル 専門分野概論 スタディスキル 情報・AIリテラシー キャリア設計Ⅰ キャリア設計Ⅱ	初頭 初頭 1前 1前 1後 2前	6科目
プログラミング入門A プログラミング入門B プログラミング入門C コンピュータシステム入門 マルチメディア入門 ソフトウェア入門 ネットワーク入門 アルゴリズム入門 情報デザイン入門 データベース入門 情報セキュリティ入門	1前(前半) 1前(後半) 1後 1前(前半) 1前(後半) 1前(前半) 1前(後半) 1後(前半) 1後(後半) 1後(前半) 1後(後半)	11科目
情報メディアリテラシー 情報メディアワーク基礎 情報メディア基礎ユニットⅠ 情報メディア基礎ユニットⅡ 情報メディア応用ユニット 情報メディア専門ユニット	1前 1後 2前 2後 3前 3後	6科目

卒業要件（卒業するために必要な条件）

卒業要件とは、大学として卒業を認めるために学科ごとに決められた条件です。皆さんが情報メディア学科を卒業するためには、下記の条件をクリアする必要があります。

- ① 修得単位数の総合計が124単位以上であること
- ② 必修科目の単位を全て修得すること
- ③ 区分・系統ごとの卒業必要単位数以上の単位を修得すること

この条件を一つでもクリアできなければ、卒業することはできません。卒業要件は、履修要綱の各学科のページに記載されていますが、表だけでは科目の詳細は分からないため、配当表と照らし合わせて確認する必要があります。特に、共通基盤教育の科目には、条件のある分類や科目が多いため注意が必要です。

卒業要件（履修要綱参照）

教 育 区 分				必選別	卒業必要単位数
共通基盤教育 全学共通 の科目	導入系			必修	3
	倫理系			必修	2
	人文社会系			必修	2
			a群	選択	2
			b群	選択	2
			c群	選択	2
	健康・スポーツ系			選択	1
	言語系	英語基礎		選択	3
		言語応用	a群	選択	2
			b群	選択	2
	数理情報系			必修	6
	キャリア系			必修	3
				選択	2
				(小計)	32
専門教育 学科の専門科目	専門基礎導入			必修	21
	専門基礎			必修	11
	専門			必修	16
				選択	26
					(小計)
任 意					18
合 計					124

選択であっても、**配当表記載の区分**の中から表記数以上の単位を修得しなければなりません。

それぞれの区分に対応する科目を知るためには、区分ごとの配当表を照らし合わせて確認する必要があります。

特殊な例として、例えば、英語Ⅰ～Ⅴは段階履修の科目であり、同期に複数の履修はできません。そのため、必要な3単位数を履修するためには、少なくとも3期必要となります。

専門科目でも、自分の取りたい科目だけでは、単位数が足りなくなるかも。区分ごとの合計単位数にも注意が必要です！

CAP制度と履修について（各期に履修可能な単位の上限）

事前事後学習（予習復習）に必要な時間を十分に確保するため、各期に履修登録できる単位数には上限があります。

【上限履修単位数】：年間44単位、半期24単位

例えば：履修単位上限いっぱい履修登録しようとする場合

「前期22単位・後期22単位」もしくは

「前期24単位・後期20単位（またはその逆）」となります。

※履修登録した科目は途中で放棄しても上限履修単位数に含まれます。

なお、成績優秀者には、この上限値を超えた履修を許可する場合もあります。例えば、前年度に35単位以上を修得し、かつGPAが3.50以上の場合、履修上限が年間4 単位加算されます。

年間上限44単位 → 48単位 半期上限24単位 → 28単位

各期に必要な修得単位数

留年しないための条件「3年終了時に104単位必要」と、CAP（年間上限44単位）を考慮して逆算すると、2年終了時60単位、1年終了時16単位取得できれば良い・・・ **これは間違いです。**

4年次は、就活と卒研の同時進行や、卒研発表と科目のテストが重なるなど、他の科目の単位取得が困難です。そのため、3年終了時には、卒研科目（8単位）のみ残している状況を目標とします。

（卒業に必要な単位**124**単位 － 卒研に関する単位**8**単位 ＝ 3年終了時には**116**単位）

更に、近年の就活は3年次に開始するため、余裕が持てる単位取得が必要です。そこで各期に推奨する取得単位数は以下の通りです。

1年終了時＝40～44 2年終了時＝80～90 3年終了時＝116以上

各期で、その期の必修科目を漏れなく修得することも重要です。

1年次前期の成績の注意事項

1年次は主に基礎となる学力や能力を身につけるための科目が多く配当されています。その殆どが必修科目であり、配当期に身に着けておくべき内容の科目です。

前期では18～24単位を取得し、以下の前期の必修科目の全ての単位を取得できていれば問題ありません。

身の回りの数学	実感する科学	スタディスキル
情報・AIリテラシー	プログラミング入門A	プログラミング入門B
コンピュータシステム入門	マルチメディア入門	ソフトウェア入門
ネットワーク入門	情報メディアリテラシー	

もし、これらが達成できていない場合、カリキュラム上、遅れが生じることとなります。現時点で留年が確定してしまう訳ではありませんが、早急な挽回を目指して下さい。もし、基礎学力が足りていないと感じる場合は、基礎教育支援センターの利用も推奨しています。

科目で不合格にならないためには

高校までと違い、大学では科目ごとに担当する教員は別々です。また、クラス担任も直接個々の科目に関わることはありません。よって科目ごとの注意事項や必須事項など、各自が自覚し理解して授業に取り組む姿勢が必要です。それが足りないと、本人にそのつもりがなくても不合格となってしまうこともあります。そうならないための要点は以下の通りです。

◇全ての回の授業に出席する◇

特に演習系の授業は、積み上げ式で順を追ってスキルアップしていく授業です。休んでしまうとついて行けなくなる可能性が高く、やむを得ず欠席してしまった場合でも、その分を次週までに挽回しておくことが必要です。授業は受講することだけが目的ではなく、受講によって知識・経験・スキルを身に付けていった結果、単位が修得できるという意識を持たないといけません。休んだ部分が解らないままでの単位修得は困難です。

◇指示や提示する注意事項・必須事項を正確に把握する◇

自分だけの判断で、指示と違う内容に力を注いでも不合格になります。もしそれらが不明瞭場合、担当教員に質問をして解決して取り組みましょう。特に、口頭による指示や注意事項を取りこぼし、成績に影響を与えてしまうケースが多くなっています。大学の授業は、履修者が多数になる科目も多く、あとで聞き直すことが困難な形態です。そのため各自の授業中の集中力や、資料の読解力が必要ということも理解しましょう。

◇提出物は必ず提出する◇

提出物が1つでも未提出だと不合格になる科目は多数あります。指示と違った内容で提出しても同様です。また、提出期限が守れない、提出方法の理解不足や提出ミスも多くこれらも減点対象となる場合が殆どです。

授業の欠席連絡や質問について

授業の欠席連絡や質問について、その対応は個々の科目によって違います。連絡や質問が必要と思われる場合は、**それぞれの科目の担当教員へ、直接メールなどで相談**して下さい。コロナ感染やインフルエンザ感染など一定期間欠席となってしまう場合は、学生課へ連絡して下さい。学生課より履修科目担当教員へ、一斉に連絡されます。

情報発信について

【全体向けの連絡】

基本はKAIT WalkerやMoodleです。Moodle上の学科掲示板や学年ごとの掲示板、科目のコースなど、こまめなチェックが必要です。

【個人向けの連絡】

教員や事務からの個別の連絡メールは、学籍番号@cco…のメールアドレスに届きます。緊急の連絡に対応できるよう、常に受信する設定にし、日々の確認が必要です。

以上となりますが、保証人の皆様より、気になることが御座いましたら、クラス担任までお気軽にご相談下さい。

クラス担任への連絡方法が不明な際には、
学生課: 046-241-9394 までご連絡下さい。

なお教務課による、成績表の見方などの解説も併せてご確認ください。

情報メディア学科
教務委員